



作業療法士

上野 涼子

1. はじめに

リハビリテーションには、理学療法、作業療法、言語聴覚療法などがあります。それぞれ、専門的に援助する内容が異なっています。今回は、作業療法について、とりわけ私が勤務しています小児分野における作業療法について、どのようなものか説明したいと思います。

2. 作業療法とは

日本作業療法士協会の定義では、作業療法とは「身体または精神に障害がある者、またそれが予測される者に対し、その主体的な生活の獲得をはかるため、諸機能の回復、維持および開発を促す作業活動を用いて、治療、指導および援助を行なうこと」を言います。わかりやすく言えば、医学における治療が、怪我や病気をもとの健康な状態に治すことを目的としているのに対し、リハビリテーションでは、もとの状態に戻ることができなくても、病気による生活上の困難を解消し、人として豊かな生活を送れるようにすることを目指しています。特に小児分野では、治ることの難しい障害を持った子どもたちが対象となります。治すということより、発達を促し、よりよい生活を送るためには何が必要かを考え治療していきます。作業療法における治療とは、個々の社会不利益の改善につながるすべての働きかけを含んでいます。

3. 小児の作業療法とは

発達障害の概念には、①精神機能または身

体機能あるいはその重複した機能障害、②発達期に起こる障害、③一生涯持続する障害、④種々の生活活動領域に重大な影響をもたらす障害、の4点が包括されています¹⁾。

作業療法士の役割は情報収集、検査・測定の実施、結果のまとめ、検査結果の解釈、治療プログラムの立案、治療・訓練の実施、再評価、フォローと連続していくものが一般的であり、これは小児分野に限ったことではありません。他の分野と最も異なるものをあげるとすれば、それは家族（特に保護者）との関係と学校教育（幼稚園、保育所含む）との関係です。子どもに対する直接的なアプローチだけでなく、保護者や子どもを取り巻く環境に対する間接的なアプローチも大切になってきます²⁾。

4. 当園での作業療法

当園では、0歳～成人の方まで幅広い年齢の発達障害児・者が通所しています。身体障害、知的障害、重複障害などさまざまな障害を有し、最近では重度の障害を持つ子どもが増えています。

作業療法では、子どもの生活を中心に、主に「遊び」を用いてアプローチしています。生活の中で子ども本人や保護者の困っていることや希望などから、子どもの身体面、精神面、生活の様子、取り巻く環境などを把握し、援助していきます。

援助の対象となりやすいのは、食事や更衣など身辺自立に関することです。一人でご飯を食べることが難しい子どもに対し、なぜできないのか、まず原因となっているものを考えます。

うえのりょうこ：藍野療育園

スプーンを使いたいが上手く使えない子どもや、スプーンに興味を持たず使おうとしない子どもなど、子どもによってできない原因はいろいろです。原因を明確にし、目標を立て、できない要素を訓練の場面に取り入れていきます。食事動作を何度も繰り返す練習は子どもにとって楽しくなく、モチベーションは高まりません。そういうとき、食事をする上で子どもができない要素を、遊びの中に取り入れていくのです。例えば、スプーンを使うために必要な手の動きを練習すること、自分で手を使って遊ぶことの楽しさを経験させます。また実際の食事場面においても、スプーンですくう練習や、手が使いやすい工夫、保護者へ介助方法の指導などを行います。

遊びの中に治療的な要素を加え、子どもの持っている能力を最大限に高めることにより、日常生活に般化していくことを目指しています。

5. 図書館の利用

私は、専門学校を卒業後、同じ系列の施設へ就職しました。そのため大学の図書館が利用でき、とても恵まれた環境です。また図書館も大きくなり、置かれている図書や文献の数も増え、より多くの情報を得ることができるようになりました。現在でも、文献を探して下さったり、リクエストを聞いて下さったりと本当に感謝しています。

学生の頃から図書館を利用していましたが、臨床に出てから利用の仕方が変わりました。新人の頃は、全てが初めてで、知識も技術も経験もなく、どのように考えていけばよいかわからないことだらけでした。毎日子どものことで頭がいっぱいなのに、治療や考え方については学校の教科書には載っておらず、困っていました。そんな時、先輩方からアドバイスを頂くと同時に、図書館へ行き、図書や文献から学ぶことがたくさんあることを実感しました。また「早く先輩のように作業療法ができるようにな

りたい!!」と、わからないことを調べるようにもなりました。「明日の子どもの治療のため…」と、仕事が終わった後によく図書館へ通っていました。今は医学中央雑誌で得た文献などから具体的な考え方や治療方法を知り、実際の臨床場面において、似た症例を参考にすることが多いです。臨床では治療方法で悩むことが多く、症例が記載されている文献は参考になります。しかしながら、さまざまな子どもたちがいるため、全く同じ症例が見つかるとは限りませんし、また見つかったとしても同じ効果が得られるとは限りません。作業療法をマニュアル化することは難しいと思います。だけど、自分で考えていくために、いろいろな情報を得ることが必要で、その一つの手段として図書館を利用することは非常に有効であると考えています。

6. おわりに

今後も、子どもや保護者によりよい援助をしていくため、図書館を利用し、日々勉強していく必要があると思います。図書館の内容の充実と共に、私自身も作業療法士として向上していきたいです。

参考文献

- 1) 矢谷令子編. 作業療法概論. 作業療法学全書 第1巻. 改訂第2版. 東京:協同医書出版社; 1999. p.130.
- 2) 矢谷令子編. 作業療法概論. 作業療法学全書 第1巻. 改訂第2版. 東京:協同医書出版社; 1999. p.134.